

報告事項カ

平成22年3月高等学校卒業就職者の離職等調査結果について

平成22年3月高等学校卒業就職者の離職等調査結果について、別紙のとおり報告します。

平成23年10月24日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成22年3月高等学校卒業就職者の離職等調査結果

平成23年9月

鳥取県教育委員会事務局高等学校課

1 調査概要・目的

鳥取労働局職業安定部による集計の結果、高校卒業後すぐに就職し、3年以内に離職する者の割合は、平成20年3月高卒就職者においては、全国平均37.6%に対して、鳥取県は42.4%である。産業構造、就業構造が変化し、厳しい雇用情勢が続く中、離職率は低下傾向にあるが、鳥取県は全国よりも若干高めで推移している。

早期離職の問題は、企業、地域産業、地域経済の発展に影響を及ぼすものであり、「高卒就職者の早期離職防止」に向けた対応は、鳥取県において重点的に取り組むべき喫緊の課題として位置付けることができる。

このことから、平成23年7月、高卒就職者の早期離職防止策を講ずる糸口を探るために、平成22年3月に高等学校を卒業して就職した者を対象にアンケート調査を実施した。

2 実施時期

平成23年7月

3 実施方法

アンケート用紙送付による質問紙調査

4 調査依頼校

県立高校24校、私立高校2校

5 回答率等

アンケート用紙送付対象者数：957名、 回答者数：134名、 回答率14%

6 分析結果

(1) 回答者の離職率と鳥取労働局発表の離職率との比較

平成23年9月に鳥取労働局職業安定部が発表したデータによると、平成22年3月新規高等学校卒業者の1年後の離職率は、鳥取県23.1%、全国平均20.7%であった。

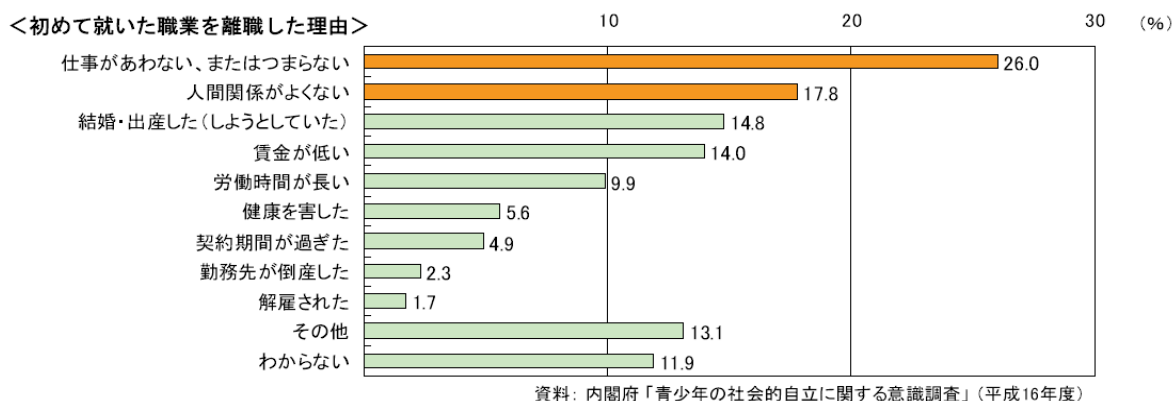
今回調査における平成22年3月新規高等学校卒業者の1年4ヶ月後の平成23年7月までの離職率は23.8%で、同様の数値を示す結果となった。

(2) 離職につながってしまった主な理由とその全国調査との比較

離職の主な理由として、「仕事があわない、またはつまらない」といった、入社前と入社後のイメージのギャップで悩むケースや、「人間関係がよくない」、「職場の雰囲気があわない」といった、メンタル面での不調につながる要因が占めていた。実際、「最初に就職した勤め先の仕事、職場」について、「ストレスが過大である」、「自分の能力に自信がない」と回答した者が少なからずいる。

また、求人数が少ないためか、「ぜひ就職したい」と希望して就職した者が少なく、「そこだったら就職してもよい」と思って就職した者が半数近くおり、このような気持ちが離職を後押ししているとも考えられる。

これらのことは、平成16年度に内閣府（当時）が行った「青少年の社会的自立に関する意識調査」結果と類似した傾向であり、厳しい雇用環境で就職した本県の若年者の考え方についても、全国的な傾向と同様であることが把握できた。



(3) 回答者自身の反省

「高校生の時にもっと身につけておけばよかったと思うこと」、「高校生の時に、もっとこんなことを学んでおけばよかったと思う内容」については、資格・技能等や一般常識といった知識・技能に関するものと、常識・マナーやコミュニケーション能力といった人間関係形成能力に関する回答が多かった。

また、「仕事というものはどういうものなのか」、「高校3年生になった時点での自分が知っている職種があまりにも少なすぎる」、「社会人になってから気付くことが多すぎる、例えば、年金のことや税金のこと、学校では学科の授業だけなので社会の仕組みを学んでおけばよかった」といった、仕事、職種、社会常識に関する学びの不足を後悔する記述もあった。このことは、学校から社会へ円滑に移行できていない卒業生が確実に存在していることを示している。

(4) 学校に求められている取組

「働いてみて、役に立った高校での学習内容」については、専門教科の内容、常識・マナー、資格、コミュニケーション能力に関する記述が多く、「もっと高校に取り組んでもらいたいこと」に対する回答とつながっている。

また、「話を聞くことよりも、実際に体験できるような学習を増やしたら良い」、「体験学習をもっと増やしてもいい」、「少しでも働く環境になれてから社会人としてやっていくほうが絶対によいはず!」といった就業体験の充実を求める意見もあった。新学習指導要領においても、就業体験の機会の確保については求められているところであり、一層の就職体験の充実が必要であるといえる。

(5) 課題の抽出

現在、学校においては、企業見学、企業研修、インターンシップ、面接指導や、入社前と入社後のイメージのギャップ(雇用のミスマッチ)を解消するための新卒者求人事業所説明会、応募前企業見学、就職準備セミナー等への積極的な参加の促進、或いは就職支援相談員を中心とした卒業生の定着指導を行っている。

しかしながら、本アンケート調査により、離職等の実態を把握すると同時に、次のとおり具体的な課題を整理することができた。

- メンタルケアの充実
- 自尊心の育成
- 資格取得・技能習得
- 社会人としての常識・マナーの習得
- コミュニケーション能力の向上
- インターンシップの推進と質の向上
- 職業教育の充実
- 関係機関による求人要請

(6) 離職防止の方策

本アンケート結果から明らかになった早期離職に係る諸課題の解決に向けて、鳥取労働局、県商工労働部、財団法人ふるさと鳥取県定住機構、ハローワーク等関係機関と連携して、様々な取組の推進、強化が必要である。

推進、強化が求められる具体的取組としては、次のことがあげられる。

○就職支援相談員等による定着指導の一層の充実

勤め先にメンタルケア対策の実施を望む者は少ないが、在学時に関わりのあった職員が卒業生の様子を認識するために企業を訪れ、話を聞くことは、卒業生の心の支えとなり、メンタルケアとして有効な手段であると考えられる。

○技能検定等資格取得の推進

県の施策の一つとして、県内の高校等在校生に対する技能検定受検手数料の減免措置がある。これらの制度の活用等、資格取得、技能習得の推進は、自分に自信を持たせることができ、自尊心や社会に出てからの働く意欲の育成につながる。

○ 就職未内定卒業生の支援

ハローワークの学卒ジョブサポーターと学校とが連携した支援を行う。

○ 集合型或いは学校単位（学校宅配）型の研修、セミナー等

社会人講師による講演、ワークショップを開催して、常識・マナーの習得、コミュニケーション能力の向上を図る。

○ インターンシップの推進と質の向上

適切な進路を選択するために、インターンシップに参加することは重要であると認識されているものの、体験日数や体験する仕事の内容等については様々な課題や意見があることも事実である。各学校においては、課題やニーズを捉えた見直しを行っていくことが必要である。

○ 産業界と学校のネットワークの構築

産業界と学校とが意見交換の場を設定し、学校が常に産業界のニーズ、企業が求める人材について把握することで、経済社会情勢の急速な変化に迅速に対応することができる。

○ 関係者による求人要請

校長を始めとする学校関係者が積極的に企業訪問等を行い、企業に粘り強く理解を求めていく必要がある。

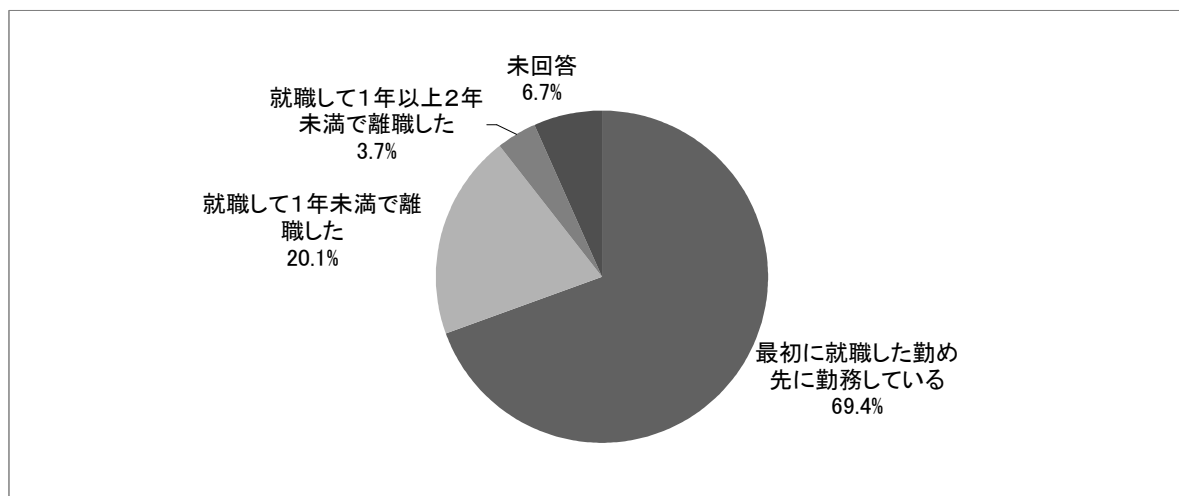
以上のような取組の推進、強化によって、平成23年1月の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の中で指摘された「基礎的・汎用的能力」の育成につなげると同時に、本県の喫緊の課題である「高卒就職者早期離職」の防止を図りたい。

(7) 今後の予定

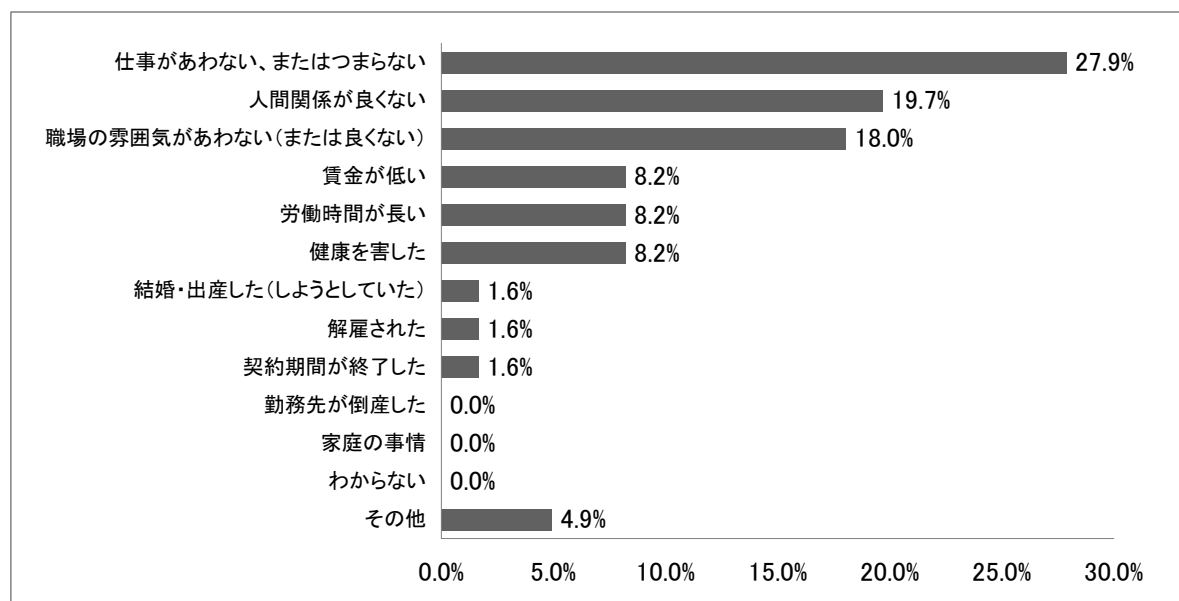
平成23年3月に高等学校を卒業して就職した者を対象に、同様の調査を実施する。

7 アンケート集計結果

【1】最初に就職した勤め先の離職等について



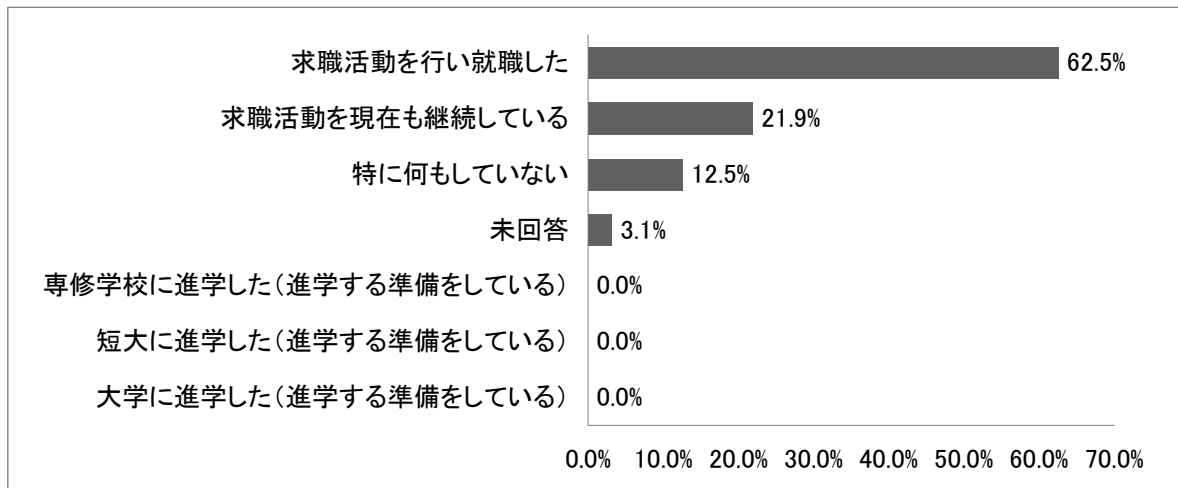
【2】離職した主な理由について(複数回答可)



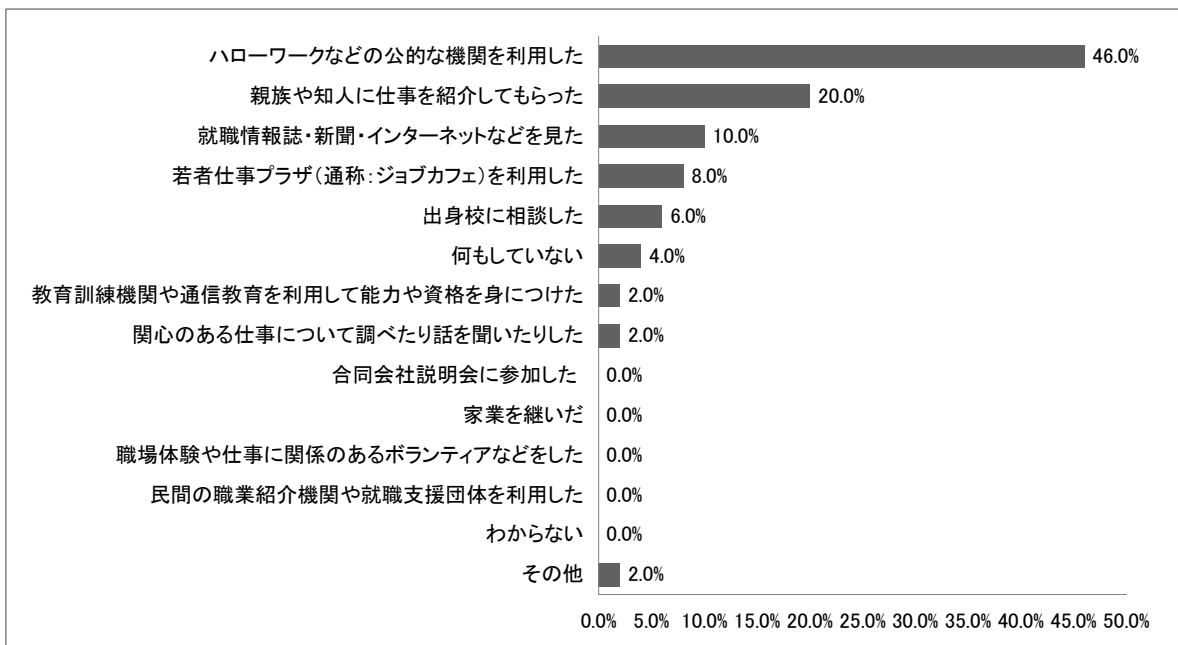
◆その他の記述

- ホームシック
- 進学したいと思った。

【3】離職後の活動について



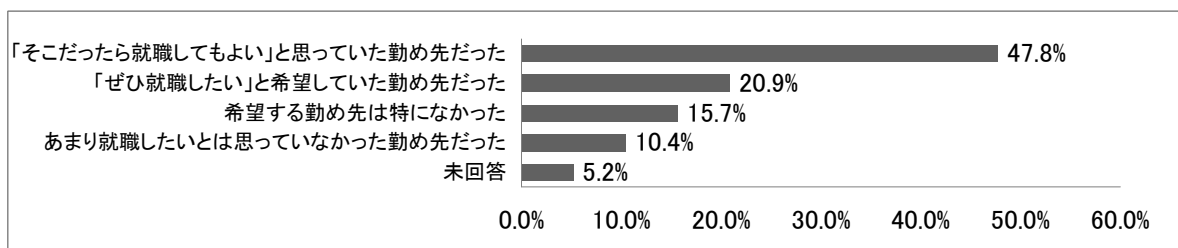
【4】離職後の主な求職活動等について(複数回答可)



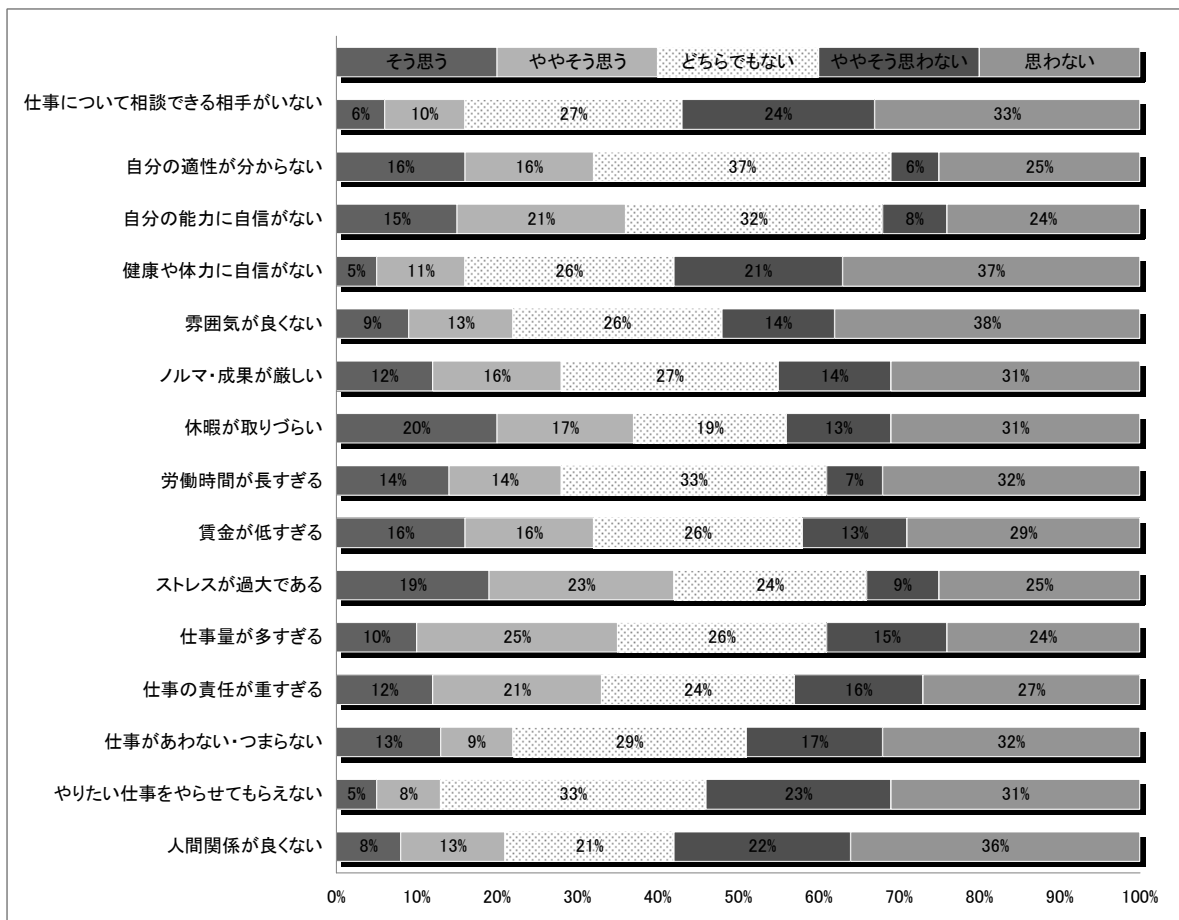
◆その他の記述

- アルバイトをしている。

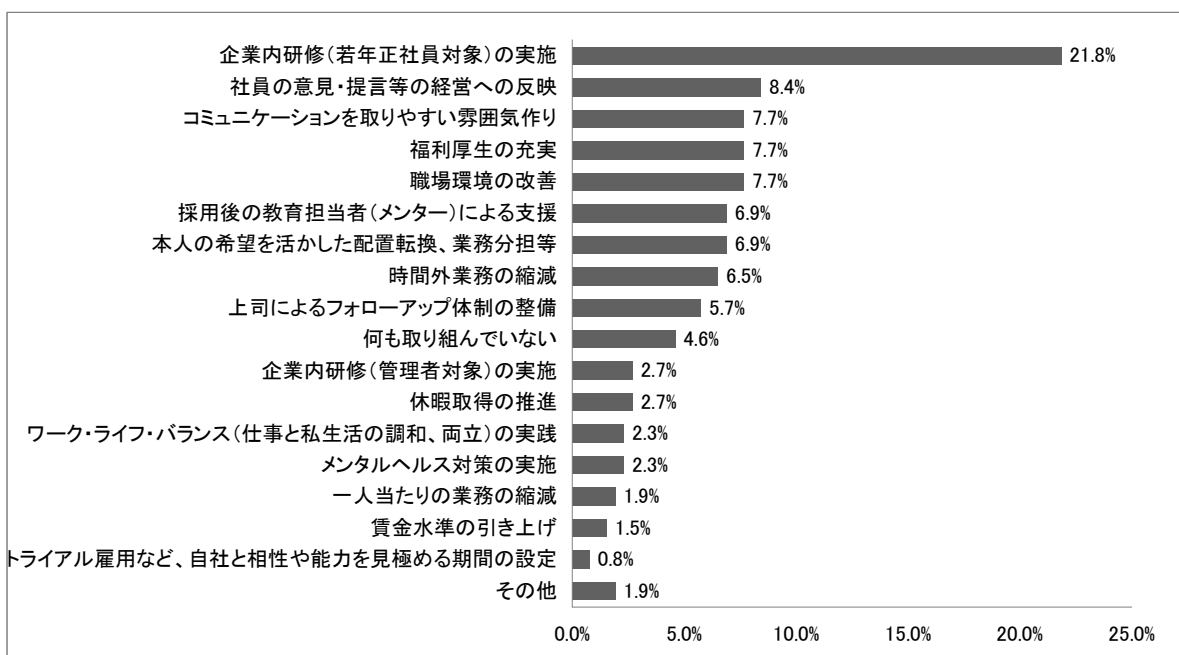
【5】最初に就職した勤め先を選んだ時の気持ちについて



【6】最初に就職した勤め先の仕事・職場について



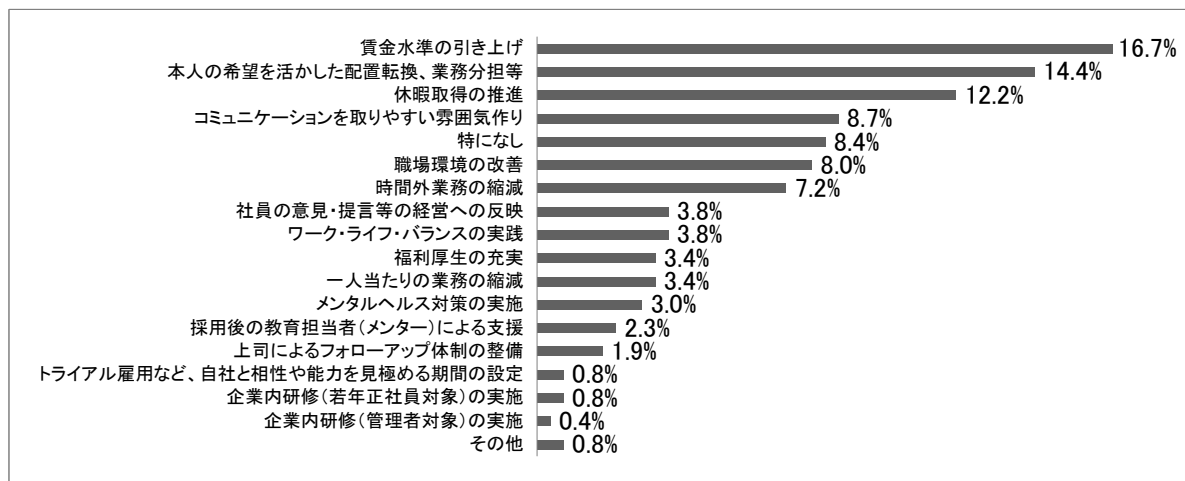
【7】最初に就職した勤め先が取り組んでいた(いる)ことについて (3つ以内)



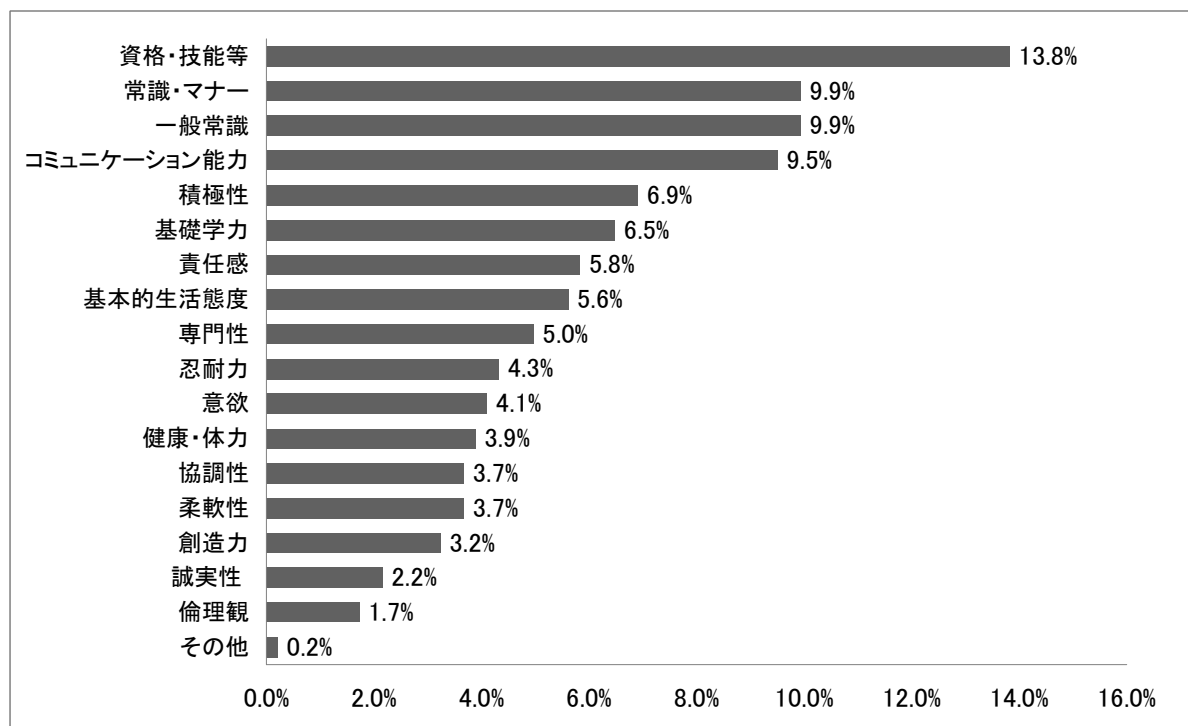
◆その他の記述

- 寮の設備、老朽化を改善
- 若い世代におしつけるようなことをしない。

【8】働き続けるために勤め先に望む取組について(3つ以内)



【9】高校生の時にもっと身につけておけばよかったと思うことについて(複数回答可)



【10】働いてみて、役に立った高校での学習内容について(自由記述)

◆常識・マナー

- 敬語を学ぶ事が出来た総合実践
- 「総合実践」という教科で教わった領収書の書き方、おじぎの使い分けなどの基本的なマナーが役に立ったと思う。その授業で使った教科書は今でもとても役に立っている。
- 常識・マナーなどを学んでいたのが役に立ちました。

◆資格

- 資格取得の取組
- 秘書検定の学習
- 資格を多く取れた事

◆専門教科

- 専門的な事をいかす仕事だったので勉強したことが生かされた。
- 調理実習
- 情報(コンピュータ)の基礎
- 電卓計算、ワード、エクセル、パソコン関係、総合実践
- パソコンでのワードやエクセルなどの情報処理
- 工業高校での専門学科
- 実習での水質検査の授業
- 自動車の専門的知識
- 電気の基礎
- 溶接
- 簿記
- 基礎化学

◆部活動

- 高校でのクラブ活動を頑張っていたことが、今になってすごくよかったと思います。体力面はもちろんですが、仲間とのコミュニケーション作り、忍耐力や責任感等はクラブ活動と仕事は通じることが多くあるからです。
- 部活動でマナーや挨拶などをしていたのでとても役に立ちました。
- 部活動で、忍耐力と健康・体力を身につけた。
- 部活動で身につけた忍耐力、コミュニケーション能力

◆体力

- 体育(体力)
- 農業で体力はついた。

◆国語

- 国語(漢字)
- 漢字

◆環境活動

- 環境改善活動

◆就職支援

- 実際に働いている方のお話を聞いたり、体験できたりしたのがよかった。

◆その他

- 友達がたくさんいたのでコミュニケーション能力には困らなかった。
- 責められても落ち込まず、何が良くなかったのかその改善策等を考える。
- 寮生活
- 採用試験において勉強したこと全般、役に立ちました。

【11】高校生の時に、もっとこんなことを学んでおけばよかったと思う内容について（自由記述）

◆常識・マナー、一般常識

- 電話対応・接遇などマナーを学んでおけばよかった。
- 常識・マナーなど社会に必要なものをしっかり学んでおけば良かった。
- 社会人としての礼儀、マナーを学んでおけばよかった。
- 敬語の使い方を学んでおけばよかった。
- 社会に出たときのマナー、電話対応(事務系の人は絶対)、お客様に対して、上司の人に対しての敬語の使い方
- 「仕事」と「学校」の違いがよくわからなかった。どう違うのか、「仕事」というものはどういうものなのかなど
- 常識・マナーとか一般常識など役に立つもの
- 一般常識(漢字や計算も)

◆資格、技能等

- 専門技術を学んでおけば良かった。
- 専門的な資格の取得
- もっとためになるような資格を取っておけばよかったなと思います。
- 資格をとる時間は十分あったのにとらなかったのも、もっとたくさん資格をとるべきだった。
- 資格を取っていたがもっと積極的に取ればよかった。
- 努力して取れる資格は少しでも多くとっておけばよかった。
- 高校での専門知識は基礎中の基礎だが、それをしっかり勉強すべきだった。

◆コミュニケーション能力

- 自分の考えを相手に上手に伝える。
- 人間性
- 上司とのコミュニケーション能力
- 誰とでも意見交換ができるコミュニケーション能力

◆基礎学力

- 基礎学力
- 英語
- 漢字
- 簿記

◆体力

- 体力をつけるべきだった。
- 体力錬成のやり方

◆会社について

- 仕事・会社など
- 今の会社の事

◆その他

- 感情の操作、協調性
- 生活に関すること(車のこと、金の使い道、金の使い方)
- 現状の社会情勢
- 優先順位のつけ方、自分の適性
- 高校3年生になった時点での自分が知っている職種があまりにも少なすぎる。高校を卒業して選択できる道が少なすぎると思う。
- 離職した後のことを何も知らなかった為、仕事を探せなかった。その為、離職後の行動について知っておきたかった。
- 社会人になってから気付くことが多い。例えば、年金のことや税金のこと、学校では学科の授業だけなので社会の仕組みを学んでおけばよかった。
- 企業が求めている人材について
- 仕事でのトラブルを相談できる場所について
- 多くの人の話を聞きいろいろな知識をつける。
- 手話

【12】もっと高校に取り組んでもらいたいこと（自由記述）

◆常識・マナー

- 生徒指導の徹底
- 服装の指導—制服を見るだけで〇〇高校だとすぐ分かるので、きちんと着こなせばよいが、だらしない着こなしたと学校の品位が下がると思う。
- 社会に出た時の敬語などの一般常識
- 言葉遣い
- 礼儀とマナーを身につける教育
- 教師の教師以外の面もさらすことによって、一人の大人としての例を見せてほしい。結果、どうでもいいことかもしれないが、世の中、物事を知る、学ぶことができる。
- テストでいい点をとるよりも、社会の基本的なところをしっかりと身につけ、それを活かせるようになることが大切だと思います。

◆資格取得

- 資格を取得させたほうが良い。
- いろんな資格

◆コミュニケーション能力

- 社会に出てからの、コミュニケーションの取り方などに取り組む学習をしてもらいたいです。
- 人との話し方、自分を持つ大切さ
- 相手とのコミュニケーションのとり方（伝え方、聞き方）

◆学習態度

- 話を聞くことよりも、実際に体験できるような学習を増やしたら良いと思います。
- もっと専門的なことを教えてほしい。
- 責任感、協調性

◆進路・就職関連

- 就職先の幅をもっと広げる。
- 体験学習をもっと増やしてもいいと思う。
- 面接の練習を増やす。慣れれば緊張しないから。
- 生徒のカウンセリング充実、できる限り企業へ求人を増やしてもらえよう相談して欲しい。
- 会社に就職した先輩方の話を聞いて、その会社の強み、良い所、悪い所など知りたい。もっと色々な科を増やして欲しい。
- 生徒のことを考えて、一人一人を見て就職先を薦めて欲しい。生徒と向き合える先生がいて欲しい。
- 生徒に対し自身の夢・目標を明確にさせ、さらに「こういった職業がある」ということもわからせてあげることが必要だと思う。
- 高校生ということもあり、なかなか働く機会の少ない人たちが、いきなり社会に出て働く状況です。ですのでバイトの規制が厳しすぎ、働くことができない。少しでも働く環境になれてから社会人としてやっていくほうが絶対によいはず！
- 今、出来ないと辞める人が多い。だから仕事をする意味、仕事の大切さをもっと教育すべきだと思う。
- もっと進路に関して積極的にフォローしてほしかった。ほうりなげるような感じだったので。

◆その他

- 県内すべての県立高校で朝読書に取り組んでもらいたい。社会人に必要な集中力・ボキャブラリーなどが身に付きそう。
- 適性や能力などを生徒に伝える・身につけさせる取組（抽象的ですが…）。
- 手話等障がい者の方に対する対応等
- 意見です！アンケートの結果を教えてください。

【13】参考データ

◆回答者の出身学科と離職者数

学科	回答者数	離職者数
農業	14	5
工業	43	4
商業	23	8
水産	4	3
家庭	3	
情報	3	
福祉		
総合	17	6
普通	24	6
その他	3	
合計	134	32

◆回答者の性別と離職者数

性別	回答者数	離職者数
男	81	14
女	53	18
合計	134	32

◆高等学校卒業直後、最初に就職した勤め先の所在地

県東部	48
県中部	23
県西部	38
その他	25
合計	134

◆最初に就職した勤め先の従業員数

	～ 9	11
10	～ 99	66
100	～ 299	22
300	～	33
不明		2
合計		134

◆最初に就職した勤め先の産業別区分

産業別区分	回答者数	離職者数
鉱業		
建設業	3	1
製造業	45	10
電気・ガス・熱供給・水道業	9	
情報・通信業	1	
運輸業	2	
卸売・小売業	16	2
飲食店・宿泊業	11	7
金融・保険業	3	1
不動産業		
医療・保健衛生・福祉	6	
教育・学習支援業		
その他サービス業(理美容、娯楽等)	15	8
公務	10	1
その他	13	2
合計	134	32

◆離職者数の多い産業別区分の出身学科別離職者数

産業別区分抜粋	農業	工業	商業	水産	総合	普通
製造業	3	1		2	1	3
飲食店・宿泊業			2	1	3	1
その他サービス業		2	2		2	2

◆最初に就職した勤め先の職種

職種	回答者数	離職者数
専門・技術的な仕事	28	1
管理的な仕事	3	1
事務の仕事	13	4
販売の仕事	10	2
営業(外回り等)の仕事	2	1
保安の仕事	8	2
サービスの仕事	21	10
運輸・通信の仕事	1	
製造の技能工	34	7
その他	10	3
不明	4	1
合計	134	32

◆離職者数の多い職種の出身学科別離職者数

職種	農業	工業	商業	水産	総合	普通
サービスの仕事		1	3		4	2
製造の技能工	2	1		1		3